様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月　４ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０３２５８

研究課題名（和文）横浜スカーフ産地における女性労働の地誌学―地場産業研究の新展開をめざして

研究課題名（英文）Regional geography of women's work: a new approach to local industry

研究代表者
中澤　高志（Nakazawa, Takashi）

明治大学・経営学部・専任教授

研究者番号：７０４０４３５８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，横浜スカーフ産地における女性の労働と生活の履歴を精緻に分析することを通じ，均質なライフコースを想定しがちであった女性労働史と，人間不在の生産中心主義に陥りがちであった地場産業研究の両者に対して，新たな知見の提示を目指した．スカーフ関連の縫製は，横浜市内の女性が追加所得の獲得を目指して手掛けることが多かったが，中には内職者と縫製業者の仲介業に転じる人もいた．現在でも縫製業に従事している人は高齢化しており，仕事自体に生きがいを見出す傾向にある．加えて神奈川県公文書館で内職求職者の非集計データを発見したことにより，研究対象を内職一般に広げた研究への展望が開けた．

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は，経済地理学の生産中心主義を相対化し，「労働の地誌学」の確立という理論的課題に向けたものである．実証的な貢献は，以下の通りである．本研究では女性の労働と生活の履歴に焦点を当てることにより，地域を生き，そこで働く人々の姿が見える地場産業研究を提示することができた．また，女性史において，高度成長期は主婦化の時代であるとされてきた．高度成長期から1980年代にかけての大都市圏において，多くの女性が家族生活との兼ね合いの中で内職に従事していたことを示したことは，こうした時代・場所をアプリオリに主婦（化）と結びつけることに対する異議申し立てとなる．

研究成果の概要（英文）：By investigating intertwining trajectories of work and life of women who are/were engaged in scarf-sewing work in Yokohama, the study tries to present a new approach to both labor history of women and geography of local industries. Scarf sewing work used to be conducted by female homeworkers in the locality, some of whom were evolved into agents who intermediated makers and homeworkers. A small number of female homeworkers, most of whom are highly aged and deem scarf-sewing to be a life's work, still exists.In addition to a series of fieldwork, individual records of homework-seekers, which are previously unused in academic work, paves a way to an inquiry into work-family relationships of homeworkers in general.

研究分野：経済地理学

キーワード：内職　地場産業　労働の地誌学　ジェンダー関係　女性労働

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

高度成長期の大都市圏は，性別役割分業が深化した時空間として，女性の主婦化と結びつけて論じられてきた．地場産業については，経済地理学を中心にたくさんの先行研究があるが，生産組織の空間的展開については詳細な記述がある反面，そこで働く人々の姿はほとんど見えてこないことが課題であった．これらを踏まえ，本研究では，高度成長期以降の横浜スカーフ産地において，女性の労働（主として内職）と生活の履歴を精緻に分析することを通じ，均質なライフコースを想定しがちであった女性（労働）史と，人間不在の生産中心主義に陥りがちであった地場産業研究の両者に対して，新たな知見の提示を目指した．それは，経済地理学の生産中心主義を相対化し，「労働の地誌学」の確立という理論的課題に向けた歩みでもあったといえる．

２．研究の目的

本研究の目的は，大きく分けると 3 つある．

(1) 地場産業研究は，日本の経済地理学においてもっとも研究蓄積に恵まれた分野といえるが，工場（生産の場）の分布の把握を基礎として，外注連関などによって生産組織の空間的形態を明らかにすることにとどまっていた．これに対して本研究では，横浜スカーフ産地を事例として，女性の労働と生活の履歴に焦点を当てることにより，そこで働く人々の姿が見える新たな地場産業研究を提示しようとした．

(2)これまでの女性史において，高度成長期は主婦化の時代であるとされてきた．これに対して本研究は，高度成長期の，しかも性別役割分業が最も顕著であった大都市圏郊外における女性の内職労働を取り上げることで，こうした一面的な理解に異議申し立てをしようとした．

(3)日本の経済地理学は産業地理学の性格が強く，労働者は生産要素の 1 つである労働力に還元され，脇役的な扱いを受けてきた．筆者は，「労働の地理学」の流れを摂取することで，生産中心主義を相対化し，労働，労働者，労働市場に焦点を当てた経済地理学を構想しようと試みてきた（中澤，2014）．本研究は，それを理論的にさらに発展させ，観察された諸事実の集合から出発し，そこに生態学的分析視角を向けることによって，地域労働市場の態様とそこにおける労働者の労働と生活を，地域的文脈に即して描き出す「労働の地誌学」を確立することを目指した．

３．研究の方法

(1)アーカイブ調査

横浜スカーフに関しては，すでに一定の研究蓄積があるものの，産地における労働，特に内職労働についての情報に乏しい．これを補うものとして，神奈川県立内職指導センターや神奈川県立内職公共職業補導所が作成した各種調査報告書を網羅的に収集した．また，内職者向けの定期刊行物であり，講習会の告知や内職者の体験談などが載せられている「内職神奈川」を発見することができた．

(2)スカーフ関連業者および女性内職者などに対する聞き取り調査

横浜繊維振興会やギルダ横浜といった関連団体の支援を受け，横浜スカーフ産業を支えるメーカー，縫製業者，糸商，ミシン商，捺染業者など，10 程度の企業や団体に対してインタビュー調査を実施した．そのうえで，内職女性と直接つながりのある縫製業者の紹介により，内職者，かつての内職経験者および縫製業者の従業員に対してインタビュー調査を行った．

(3)「内職求職相談票」の分析

アーカイブ調査で得られた最も重要な資料は，「内職求職相談票」である．これは，およそ 290 人の内職求職者に関するカード形式の記録簿の一部である．これをデータベース化し，内職者の属性や家族構成，配偶者の職業や所得などを分析するとともに，内職斡旋の実態などについて分析した．

４．研究成果

(1)アーカイブ調査

1960 年代から 1980 年代にかけては，多数の内職者が存在していたため，女性内職者の保護と彼女たちの労働力を動員する両方の目的から，神奈川県・横浜市の双方が内職行政を熱心に展開し，実態調査も数多く行われていることが確認できた．特に神奈川県は，内職のあっせんとともに，内職グループの形成とリーダーの養成に取り組み，女性内職者の組織化と早期離職の抑制を図っていた．1960 年代前半には，神奈川県内全域を対象とした内職調査が行われていた．これによって，内職者の従事する仕事に関する地域差を分析し，さらには内職者の分布を字レベルで把握することができた．この調査を実際に担当した横浜市立大学の学生による感想文集も見つかり，当時の大学生による内職者へのまなざしも併せて分析できる．欠落期間もあるが，内職者向けの定期刊行物であり，講習会の告知や内職者の体験談などが載せられている「内職神奈川」を発見することができた．これらの資料は，必ずしもスカーフに関する内職に限定されないものであるが，研究の可能性を内職一般に広げ，日本の高度成長・安定成長を支えた低賃金労働力であると同時に，家族内で「母」や「妻」としての役割を担う存在として，大都市圏における女性

内職者を捉えなおすにあたって有益であった.

(2)スカーフ関連業者および女性内職者などに対する聞き取り調査

横浜繊維振興会やギルダ横浜といった関連団体の支援を受け，横浜スカーフ産業を支えるメーカー，縫製業者，糸商，ミシン商，捺染業者など，10 程度の企業や団体に対してインタビュー調査を実施した．その結果，横浜スカーフは何度かのブームを経験したものの，服装のカジュアル化に伴ってスカーフ需要が減少したことや，ハンカチがタオルに変わったことなどにより，産地は著しく縮小している．内職者や内職経験者に対するインタビュー調査は，内職女性と直接つながりのある縫製業者の紹介によって行った．内職は口コミによって家計補助を目的として始められることが多かったようである．中には内職者を束ねる役割から，内職斡旋業に転じる女性もいた．今でも続けている内職者は高齢で，所得確保というより生きがいとして従事している．インタビュー調査は，ある縫製業者の従業員に対しても行った．長期勤続の従業員がほとんどであり，自分の手でスカーフやハンカチをきれいに仕上げることに意義を見出して働いていた.

(3) 「内職求職相談票」の分析

神奈川県公文書館で発掘したこのデータは，川崎地区行政センターが受け付けたと考えらえられるカード形式の記録簿であり，およそ 290 人の内職求職者について，住所，住宅，年齢，家族状況，配偶者の職業やおおよその所得などとともに，内職相談の履歴が記されている．内職求職者の大半は,川崎市川崎区から横浜市鶴見区にかけての工業地帯に居住し,社宅居住者が多い．したがって，夫が製造業に従事している例が多いが，公務員の妻なども散見される．ひとり親世帯など，生活のために内職を必要としている人は少数で，空き時間を活用して追加所得を得たいと希望する人の方が多数派である．そのため，斡旋を受けてもすぐに辞めてしまう人が大半であり，その理由としては，当時広がりつつあったパートと比較して内職の工賃が低いことや，生活上内職の所得が不可欠であるわけではないこと，家事・育児との両立は現実として難しいことなどが読み取れる．このデータがカバーする 1980 年代前半は，既婚女性の働き方が内職者からパートに本格的に転換していく時期であり，その変化を家族におけるジェンダー関係の転換と照応させて分析した.アーカイブ調査で得られた各種資料や,「内職神奈川」「婦人就業援助だより」といったニューズレターを参照することで，データに含まれる内職求職者の位置づけを明確化することが課題である.

(4)理論的成果

筆者が模索を続けてきた「労働の地誌学」を理論的により高めていくことは，本研究の課題であった．とりわけ，地域労働市場の態様とそこにおける労働者の労働と生活を，地域的文脈に即して描き出すという「労働の地誌学」の問題意識を，比較研究に対して開かれたものとすることが目標であった．その点では，中澤（2018）を公表できたことは，大きな前進であった．そこで筆者は,「『労働の地誌学』の目的は，労働者の声を拾い集めることで，ローカルな文化的・社会的・制度的な制約と可能性の中で，労働者が主体性をもって労働と生活の時空間を組織化しライフコースを構築していること，そしてその営みが地域労働市場・生活圏そのものを創り出し，変えていく力となっていることを描き出すことにある（p.45）」と述べた.

<引用文献>

中澤高志（2014）:『労働の経済地理学』日本経済評論社.
中澤高志（2018）:織物産地の労働市場と女性たちの働き方・生き方―労働の比較地誌学にむけて―．木本喜美子編著『家族・地域の中の女性と労働―共稼ぎ労働文化のもとで』明石書店：39-68.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 中澤高志	４．巻 65
２．論文標題 地理学復権への道標―『経済地理学再考』考―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 経済地理学年報	６．最初と最後の頁 219-231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中澤高志	４．巻 271
２．論文標題 団塊ジュニア世代の住まい と仕事―「失われた世代」 が失ったもの―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 生活経済政策	６．最初と最後の頁 23-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中澤高志	４．巻 37
２．論文標題 ポスト拡大・成長社会にお ける労働市場の地理的多様 性―空間的非定常性をめぐ る経済地理学的省察―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 地域経済学研究	６．最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中澤高志	４．巻 64（11）
２．論文標題 融けない氷河―「就職氷河 期世代」の地理を考える	５．発行年 2019年
３．雑誌名 地理	６．最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中澤高志	4．巻 65
2．論文標題 再生産の困難性，再生産と 主体性	5．発行年 2019年
3．雑誌名 経済地理学年報	6．最初と最後の頁 312-337
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中澤高志	4．巻 74（12）
2．論文標題 女性は東京を目指す―それ は「問題」か？	5．発行年 2019年
3．雑誌名 労働の科学	6．最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中澤高志	4．巻 64(3)
2．論文標題 政治経済学的人口地理学の可能性―『縮小ニッポンの衝撃』を手掛かりに―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 経済地理学年報	6．最初と最後の頁 165-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中澤高志	4．巻 12
2．論文標題 ステューデンティフィケーションとは何か ： 論点の整理と日本の都市地理学研究への示唆	5．発行年 2017年
3．雑誌名 都市地理学	6．最初と最後の頁 33-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　4件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 中澤高志
２．発表標題 コメント：再生産の困難性 、再生産と主体性
３．学会等名 経済地理学会大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakazawa, T.
２．発表標題 Towards a Politco-Economic Population Geography: A Japanese Intervention
３．学会等名 Fifth Global Conference on Economic Geography（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中澤高志
２．発表標題 地方圏における公共セクターの雇用と若者
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム　国土のグランドデザイン2050の意義と課題（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中澤高志
２．発表標題 地方都市の若手創業者が生み出すもの―長野県上田市での調査から―
３．学会等名 人文地理学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中澤高志
２．発表標題 ポスト拡大・成長社会における労働市場の地理的多様性―地理的非定常性をめぐる経済地理学的省察―
３．学会等名 日本地域経済学会第30回大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中澤高志
２．発表標題 地方圏の若手創業者が生み出すもの―地理学者は街づくりにどう貢献できるか―
３．学会等名 日本学術会議若手アカデミー　SDGsで地域活性―まちづくりに新たな解決策「新国富指標」―（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中澤高志
２．発表標題 若手創業者を支える内と外のネットワーク―長野県上田市での調査から―
３．学会等名 日本地理学会春期学術大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計6件

１．著者名 OECD、中澤　高志、鍬塚　賢太郎、久保　倫子、久木元　美琴、飯嶋　曜子、由井　義通	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 176
３．書名 地図でみる世界の地域格差　OECD地域指標2018年版	

１．著者名 中澤高志	４．発行年 2019年
２．出版社 旬報社	５．総ページ数 308
３．書名 住まいと仕事の地理学	

１．著者名 木本　喜美子	４．発行年 2018年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 288
３．書名 家族・地域のなかの女性と労働	

１．著者名 経済地理学会	４．発行年 2018年
２．出版社 原書房	５．総ページ数 720
３．書名 キーワードで読む経済地理学	

１．著者名 神谷　浩夫、丹羽　孝仁	４．発行年 2018年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 216
３．書名 若者たちの海外就職	

１．著者名 宮本 みち子、石井 まこと、阿部 誠	４．発行年 2017年
２．出版社 旬報社	５．総ページ数 323
３．書名 地方に生きる若者たち ： インタビューからみえてくる仕事・結婚・暮らしの未来	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考